



栄光の未来

R6.9.20 発行

第15号

令和6年度
東翔祭

主体性を発揮して取り組んだ！

今年度の東翔祭が14日(土)に行われました。開催の数日前から天候が不順となり、当日の天気も心配されましたが、そんな心配を吹き飛ばすような好天に恵まれ、生徒の皆さんが競技や応援に全力で取り組んでくれました。

今年度の種目に一つの変化がありました。実行委員の生徒と担当職員で協議し、全校種目として「大玉送り」を復活させたことです。これは、コロナ禍で規模縮小となった昨年度までの東翔祭をそのままなぞるのではなく、目的に立ち戻って考え、望ましい東翔祭の姿に迫るための変更でした。生徒の声によってこの変更がなされたことは、「生徒の手による学校づくり」にもつながるものです。実行委員の皆さんの英断は素晴らしいものでした。「ありがとう」の言葉を贈りたいと思います。

この大玉送りを皮切りに、団体種目である「大縄跳び」や各学年での「全員リレー」、代表選手による「チーム対抗リレー」で熱い戦いが繰り広げられました。また、その後の「応援パフォーマンス」では、どのチームも工夫を凝らしチームが一体となった素晴らしいダンスを披露しました。各チームで作成したパネルも、皆さんの頑張りを力強く後押ししていましたね。



お互いに競い合い、結果として手にした賞には価値があります。しかし、皆さんはそれ以上に大切な価値に気づき、手にしていたのではないかと思います。開会式で皆さんの代表から繰り返し語られた「楽しもう」の言葉や、閉会式で勝敗がついた後に長井実行委員長が語った「勝敗を超えて手にしたもの」という言葉に、それが表れていたと思います。素晴らしい、最高の東翔祭でした。ありがとう！

開・閉会式も「生徒主体」で！

開会式での校長としての役割は、主催者として「校長の話」を述べるのではなく、主役である全校生徒を応援する「激励の言葉」を述べることでした。東翔祭での自分の出番はこの1回だけで、昨年度まで校長が行っていた閉会式での表彰は、実行委員会の生徒が優勝チームに賞状やトロフィーを手渡し形に変更となりました。ここにも、実行委員会による「生徒主体の学校づくり」に向けた姿勢が表れていました。素晴らしいですね。

